

日本社会事業大学

SOCIAL

ソーシャルワーカーズ

WORKERS

2021.12

vol.19

社大OB・OGがつむぐ福祉の絆

地域の誰もが助け合い心地よく暮らせるよう
人と人をつなぐソーシャルワーカー



さまざまな問題を抱えた住民に寄り添い、
個別支援、ボランティア、サロン活動など地域に根差した
幅広い支援を行うソーシャルワーカーを紹介します。

INTERVIEW

OG 松野 美香さん

社会福祉法人 世田谷区社会福祉協議会 地域社協課
北沢地域社協事務所 主任(社会福祉士)

INTERVIEW

OB 檜山 遼相さん

社会福祉法人 北区社会福祉協議会
生活困窮者自立支援係 主事(社会福祉士)



熱い思いをもった先生方や仲間たちと
一緒に過ごした時間が福祉に携わるもの
としての姿勢を教えてくださいました

2018年3月
社会福祉学部 福祉計画学科 卒業

OB ひやま りょうすけ
榎山 遼相さん

社会福祉法人 北区社会福祉協議会
生活困窮者自立支援係 主事(社会福祉士)



面談後は面談内容を記録します。相談者1人につき担当する職員は基本的に1人ですが、職員で相談し合い、複数の視点からより良い課題解決の方法を見つけます。



管理係所属のときに制作した資料やチラシ。自分のやりたいことが実現に向かっていく楽しさがあります。

住民の方の暮らしに
幅広いサポートで寄り添う

子どもや高齢者など支援する人を絞らず、たくさんの方と関わりたいという思いで、地域福祉の道へ進んだ榎山遼相さん。卒業後は、北区社会福祉協議会で活躍しています。入職から3年間は、管理係として法人運営

榎山さんのある一日

- 8:30 出勤
係ミーティング(前日の新規相談者の情報共有)とメールチェック・電話対応・来所者対応
- 10:00 予約されていた相談者との面談
- 11:00 面談の記録入力と電話対応・来所者対応
- 12:00 昼休憩
- 13:00 予約されていた相談者との面談
- 14:00 面談の記録入力
面談内容について上司へ報告
- 15:00 福祉学習プロジェクトチームの打ち合わせ
- 16:30 翌日の面談のための記録の振り返り
- 17:15 退勤

(日によって業務内容は変わります)

に関わるもののほか、就職フェア・実習生の受け入れを担当。2021年4月から生活困窮者自立支援係となり、サポートを必要としている方への、制度の案内や相談に応じています。相談者と直接関わる仕事は、現在の部署が初めて。異動してしばらくの間は、先輩職員に同席して仕事を覚えていきます。榎山さんは、そのときに相談に来た若い女性が印象に残っているといます。「話を聞くと、金銭的な問題で生活に困っているとのことでした。そこで、食の支援物資を渡したんです。若い人には、支援物資を遠慮される方が多いのですが、その方はとても喜んでくれました。相談者が笑顔になるところを、初めて目の前で見た瞬間でした。私たちの行動が役に立っていることを強く実感しましたね」

大学で学び気付いた「福祉を身近に」という思い
日本社会事業大学で過ごした先生や仲間との時間は、今の自分の価値観につながっていると榎山さんは話します。「福祉ボランティアのサークルが盛んで、福祉のアルバイトをしている人も多くいました。授業だけでなく、自分の時間を割いてでも福祉活動に関わろうとする熱い思いをもった仲間がたくさんいます。そうした環境で過ごすことで、福祉への向き合い方を学びました」
在学中に「誰もが福祉を身近に感じられようになりたい」という思いが生まれ、福祉を発信する「広報」の勉強にも力を入れるようになったといいます。その思いは今も強く「たくさんの方に福祉を届けることが、私の大きな目標」と語ってくれました。



仕事に大切な「人の気持ちをくみ取ること」や
「信頼関係を築くこと」も日本社会事業大学の
教授やゼミの仲間から学ぶことができました

1997年3月

社会事業学部 社会事業学科 卒業

OG まつの みか
松野 美香さん

社会福祉法人 世田谷区社会福祉協議会 地域社協課
北沢地域社協事務所 主任(社会福祉士)

松野さんのあゆみ

- 1997年4月 世田谷区社会福祉協議会に入職。
デイサービスセンターに配属
高齢者対象の通所サービス施設
で相談・介護等を担当しました。
- 2000年4月 同協議会の老人休養ホームに異動
当時あった宿泊可能施設で相談、
事務を担当しました。
- 2002年4月 同協議会の砧地区社会福祉協議
会に異動
母子事業、障がい者事業、相談、
事務を担当しました。
- 2005年4月 同協議会の北沢地域社協事務所に
異動
地区社協(福祉的な課題解決を目
指す住民主体の活動組織)を担当
しました。
- 2010年4月 同協議会の砧地域社協事務所に異動
地区社協及び地域資源開発事業
を担当しました。
- 2019年4月 同協議会の成年後見センターに異動
権利擁護支援事業を担当しました。
- 2021年4月 同協議会の北沢地域社協事務所に
異動



明るい自然光が入り込む北沢地域社協事務所。
駅前商店街のにぎやかな通りに面しており、親
しみやすく訪ねやすい雰囲気。



事務所のあるビルの前で職場の皆さんと。社協の
イメージキャラクター「ココロン」のぬいぐるみを持
っているのが松野さん。

「個別」と「地域」の支援を担当 「コロナ禍の影響による相談も

演劇や音楽など文化の発信地
として知られる下北沢。その駅
前商店街に面したビル内に松野
美香さんの勤務する北沢地域社
協事務所があります。若者でに
ぎわうイメージの街ですが、長
く住み続けている高齢者も多く、
昔の下町の雰囲気が残ります。

世田谷区社会福祉協議会に入
職後、区内各所でキャリアを積
み重ねてきた松野さんは、同じ
区でも地域による個性があり、
その特色を知ることが欠かせな
いといいます。北沢地域では
個々の困りごとの相談支援をは
じめ、住民の地域活動や居場所
づくりに携わってきました。社
会福祉協議会が行政と地域包括
支援センターとともに取り組ん
でいる「個別支援」と「地域支援」

の両輪の業務です。

「最近には特にコロナの影響で若
い人の相談が増えていますね。
収入が激減した方や、就職活動
をしても仕事が見つからず、体
調を崩された方もいらっしゃる
います。生活福祉資金特別貸付の
申し込みを受ける中で、食事に
困っていることがわかれれば食
の支援をしたり、関係機関へつな
いだり、生活支援課(生活保護)
の紹介なども行っています」

食の支援物資は近隣の住民か
らも届きます。なかには「田舎か
ら送られてきたよ」と重たい米袋
を持ってきてくださる方も。そ
んな善意の集まりが事務所の一
角に「フードドライブ」のコーナ
ーとして設置されており、困窮者
の生活の一助になっています。

社大のゼミで学んだ 人の気持ちをくみ取ること

松野さんが福祉の道を選んだ
のは、高齢化の進展や家族機能
の低下が問題視され「福祉」の
重要性が急速に注目された時代
でした。日本社会事業大学への
入学は、高校時代の社会科の先
生に「社大の卒論を見ると内容
が深く、質の良い授業を受けて
いることがよくわかる」と勧め
られたことがきっかけでした。
所属したゼミでは教授の出席
する学会や泊まりがけのフイー



北沢地域社協事務所の入り口近くに設置されている「フードドライブ」のコーナー。法人や近隣の住民からも支援があり、カップ麺やレトルト食品、洗剤などの日用品も集められています。コロナ禍以降は需要が増えており、対応にも力を入れています。



世田谷区社会福祉協議会のパンフレットと北沢地域社協のチラシ(写真左)。社協のイメージキャラクター「ココロン」はこんなところにも。ほかにも多くのチラシがあり、すべて地域の福祉に関わるものです。



ヒマワリの革細工は以前配属された地区社協でお客様からもらったもの。キーケースとパスケースはデイサービスセンター勤務時代に入所者の方と一緒に作ったもの。それぞれの時代の勤務地の思い出の品です。

「地域も福祉も日頃は意識していないので、自分で解決できない問題を抱えたときに初めてその必要性を感じるんですね。その中で私たちは多くの人が助け合いながら心地よく生活できる地域づくりに参画していただければ、理解の促しや仕掛けづく

りを行っています。その方法に正解はなく、成果も見えにくいのですが、この道を選んでよかったと実感できることもあります」
設立に関わったサロンで楽しむ人を見たり、住民の地域を大切に思う気持ちに触れたとき、その実感は湧くといえます。

「地域をよく知ることでできる「孤立させない」支援も

自宅で暮らす104歳の老年
寄りが囲碁が好きだとわかり、

訪問できる囲碁好きの住民を紹介したことも。地域をよく知る松野さんならではのマッチングが「孤立しない、させない地域づくり」の事例として事業に組み上げられてもいます。

多岐にわたる日々の仕事の中で、他者のために本当に親身になって動いている人に出会った時に心を揺さぶられる瞬間があり、この心を揺さぶられることが仕事の原動力になっているといえます。

「社協は何をしているかわからないといわれることもあるので、社協の仕事を地域の方にもっと知ってもらえるようにすることも課題のひとつです」と松野さん。こんな人が地域にいてくれたら心強い、と思わせる魅力的な笑顔で語ってくれました。

地域福祉とは？

一人一人が望む場所で、豊かな人間関係に囲まれながら生き生きと暮らせるよう、地域や専門職の方と協力して福祉課題に取り組みます。

Q 地域福祉とはどのようなものでしょうか。

A 地域福祉は地域住民同士の支え合いと思っている方が多いですが、それだけではありません。地域福祉の目的は、地域で暮らす誰もが孤独や孤立を感じることなく、差別や排除をされずに、安心して暮らせるようにしていくことです。そのためには、地域住民同士の支え合いだけでなく、さまざまな専門職による地域生活支援も大切です。また地域福祉では、住み慣れた自宅で暮らし続けるだけでなく、たとえ施設で暮らすようになったとしても、今まで育んできた人間関係が途切れることなく、そして施設内だけで生活が完結してしまわないよう、社会とのつながりを感じて暮らせることを目指しています。

Q 地域福祉を大学で学ぶ意義を教えてください。

A 地域福祉を進めるためには、人々の暮らしや地域で起きている問題の理解が不可欠です。例えば、精神障害や発達障害など、見た目にはわかりにくい生きづらさを抱えている人が誤解され、人間関係のトラブルから家に閉じこもりがちになることもあります。人々の無知や偏見をなくしていくにはどうしたらよいか、学習や交流の機会など多様な取り組みを考える力が求められます。人々の生きづらさを見抜き、解決策を考え、行動する力を養うために、日本社会事業大学では社会福祉専門科目の講義、演習、実習のほかに基礎教養も学習し、広い視野と深い視点をもったソーシャルワーカーを育てていきます。

Q 地域福祉の仕事は、具体的にどのようなものですか。資格が必要ですか。

A 地域生活支援に関わるものはすべて地域福祉の仕事と言えます。ただその中でも地域内の多様な人と協働することが多い職場として、社会福祉協議会や地域包括支援センター等が挙げられます。支援を必要とする人に対する個別支援に加えて、その人々が暮らす地域に対して住民活動等の地域支援を行います。地域包括支援センターは社会福祉士の資格が必須。社会福祉協議会では必要な資格はありませんが、社会福祉士の有資格者を採用するところが増えています。地域福祉の現場において大切なことは、すべての人へ敬意を持って接することです。地域の人々の暮らしを丁寧に見つめ地域に根差した福祉を進めます。